

「多幸湾公園ファミリーキャンプ場」事業計画書概要版

I. 事業方針

1 管理運営に対する基本方針について

(1) 管理運営に対する基本的考え方と重視する視点

① 地元自治体の政策との連携

神津島村、島づくりの基本方針である「島ならではの観光・交流産業が育つ活気のある島づくり」に基づき、利用者のニーズに合わせてサービスを提供する。

② 地域の資源および人材を活用した体験サービスの提供

神津島自然を多くの来島者に楽しんで頂く為、自然教室等では地域団体等と連携し、神津島の特色を生かし、神津島でしか体験できないことを提供する。

③ 自然災害や事故などの対応に不可欠な地元関係機関との連携

関係機関との緊密な連絡体制を構築し、日常的な備えを万全なものとする。事故や災害が発生した際には、的確に速やかに利用者の安全を確保する。

(2) 申請者のノウハウを活用した業務展開

① 前期指定管理期間の総括

令和元年度利用者数 2,862 人、利用者収入 3,685,250 円、2 年度、3 年度休園による収入なし、施設再開 (R4.6.10～) をした 4 年度 664 人、238,989 円、地域住民や利用者へ配慮した施設受入れに伴った減少だが、お客様満足度が高いアンケート結果であった。今後改修工事による予約可能枠の受入れとなるが、引続き利用者目線の快適な施設整備、サービスの向上、安全管理をしていく。

② 前期指定管理期間の実績を活かせる事項

花火大会等イベント時や繁忙期の村営バス運行を臨時から通常巡回路線へ組み込み、定時路線としたことや多幸湾キャンプ場の目の前のバス停を引続き設置し利便性を高めることができた。また、東海汽船 (株) とのコラボによる低価格で集客率の高いツアーを引続き調整し、利用者の利便性を高めるため検討・取組みを行っていく。

③ 前期指定管理期間の反省点とその改善に向けた取組

前期の指定管理期間ではコロナ感染症の影響による休園、再開後の地域住民や利用者へ配慮した施設受入れを行い、利用者数、利用料収入の減少であった。多幸湾キャンプ場の SNS などを活用した情報発信、各関係機関や東海汽船 (株) の協力を得て当施設の周知、改修工事との兼ね合いを見ながら神津島ならではの自然教室の検討を行っていき、島内外問わず、年間を通じて集客のため取組みを展開していく。

II. 事業計画

1 人員配置計画

(1) 人員配置計画

通常運営に必要な 9 名の他、繁忙期等必要に応じて作業員を募集し、必要な人材を確保する。

(2) 適切な管理運営を行うための人材の確保と職員の技術・能力向上への取組

運営するにあたり必要な9名の他、繁忙期など必要に応じて作業員を募集し、必要な人材を募集する。また、村役場や関係機関と連携して研修会へ参加するなど職員の技術・能力向上に努めます。

2 運営計画

(1) キャンプ場の役割と事業展開

現代ではなかなか出来ない経験などを提供する。神津島の情報提供等については、村や観光協会等と連携し、充実したサービスを提供していく。自然の中にある宿泊施設として、地元機関の協力を得ながら、島の自然文化を活かした企画に力を入れる。

(2) 閑散期対策への取組

閑散期（11月～2月）にはデッキテント料金を半額とする。島内外問わず集客の為、関係機関等と連携し広く周知をし、メニューを企画する。

(3) 質の高いサービス提供への取組

- ・利便性向上（情報提供、施設の開放、物販、バスの路線変更等）
- ・神津島でしか味わえない自然教室・文化体験の提供
- ・衛生管理の徹底

(4) ニーズの把握及び満足度の調査

- ・アンケート、お声かけ（要望把握、運営への反映、回収率向上の取組等）
- ・外国人観光客への対応（英語表記、自動翻訳機の利用等）
- ・利用者の要望、苦情に対する情報共有、対応（ミーティング等）

(5) 施設の広報に関する取組

- ・SNS等、多様なコンテンツの活用
- ・外国人からの問い合わせに対するスムーズな対応

(6) 地域連携や地域振興、関連施設との連携への取組

- ・地元機関等と連携した地域特性、資源を生かした自然教室の開催
- ・荒天時等の緊急避難施設としての近隣村営施設の活用

(7) 業務効率化への取組

- ・施設修繕での経費削減（廃材等利用、スタッフによる修繕等）
- ・船便等の情報掲示による利便性向上と問合せ減少による業務効率化
- ・コインタイマー式洗濯機等使用、冷暖房調節
- ・伐採木無償提供による販売用薪等の材料確保

3 管理計画

(1) 適切な維持管理を行う為の取組

- ・施設保守点検の専門業者委託と、修繕等への早急な対応
- ・日常の衛生管理として、サービスセンター、園地園路の清掃実施

- ・ 自然と共有、島の生活に配慮した環境配慮型施設として運営
- (2) 事故の防止や発生時への対応、自然災害等への緊急時対応
- ・ 園内巡回で危険箇所等を早期に把握し、利用者へ案内、対処する
 - ・ 防災訓練に実施、マニュアル整備、連絡体制構築、発生時対応
 - ・ 荒天時、近隣村営施設を緊急避難場所として活用
 - ・ 防災マップの設置、非常時避難場所の周知
- (3) 宿泊者の安全性、快適性の向上に向けた取組
- ・ 薬剤散布等による危険生物の駆除
 - ・ 応急処置方法の勤務者全員の共有
 - ・ 病気や怪我等発生時、早急に対応し、診療所へ連絡、送迎
 - ・ 施設の規模・状況に応じた適正人数の受入れ
 - ・ 引続き除菌や消毒を推奨し安全性、快適性に努める